

乏
盛り上がりにとぼしい。
〔 〕

(ア)	酸素のケツボウ	必要なのが不足するてい	〔 〕
(イ)	いつもピンボウしてゐる。	財産や収入がなくならずしく暮らす	〔 〕
(ウ)	失職してキョウボウする	金銭や物がなく苦しむ	〔 〕

懐
懐かしい思い出。
彼は懐が深い。

(ア)	江戸文化をカイコする	遠い昔を思い心ひかれる	〔 〕
(イ)	往時をジユツカイする。	心中の思いをのべる	〔 〕
(ウ)	お金にカイギ的になる。	うたがいを抱くこと	〔 〕
(エ)	折々のカンカイを書き記す。	心に抱く思い	〔 〕
(オ)	衣服の胸のどてらや袴ケツボウの カイチュウ時計を買う	〔 〕	〔 〕
(カ)	新戦略をカイボウしている。	心にいだき思っている	〔 〕

傍	道のかたわらにたたずむ。
	〔 〕

(ア)	口ボウに咲く花。	みちばた	〔 〕
(イ)	ボウカン者の振る舞い。	はたから眺めること	〔 〕
(ウ)	ボウケイの企業。	主流からはずれた	〔 〕
(エ)	ボウジャク無んな態度。	勝手気ままに振る舞う様子	〔 〕
否	価格が適正か否か議論する。		〔 〕

(ア)	友人のアンビを気づかう。	無事かどうか	〔 〕
(イ)	言葉のカビを考える。	よしあじ	〔 〕
(ウ)	サンビ両論渦巻く議論。	▼さんせいと反対、両方の意見	〔 〕
(エ)	措置のトウビを問題にする。	正しいか正しくないか	〔 〕
(オ)	いやオウなしに連れ戻す。	▼無理やり	〔 〕

澄
すんだ瞳の少女。
〔 〕

(ア)	山奥の河はセイチヨウだ。	きようかですみきつてゐる	〔 〕
(イ)	河川のチヨウメイ度。	水や空気などがすみきつてゐる度	〔 〕
堅			
	合格はかたい。		〔 〕

(ア)	キヨウケンな志だ。	しっかりとっている	〔 〕
(イ)	従来の立場をケンシする。	かたく守つて譲らない	〔 〕
(ウ)	ケンジツな学習をする。	手がたく厄なげない	〔 〕
(エ)	▼主義主張を強い意志で貫くこと 志操ケンゴなひと。		〔 〕
朗	ほがらかに晴れた秋空。		〔 〕

(ア)	メイロウな予算案だ。	嘘やごまかしのない	〔 〕
(イ)	入賞のロウボウが入る。	あかるい知らせ	〔 〕

際
▼まにこ思を引き取うつとしている時 今わの際に立ち会う。
〔 〕

(ア)	議論はサイゲン <small>かせぎ</small> がなく続いた。	〔 〕
(イ)	倒産の危機にサイカイ <small>たまたまあつ</small> する。	〔 〕
趣		
	お手紙の趣承りました。	〔 〕
	昔ながらの趣を残す温泉宿。	〔 〕

(ア)	開業のシユシに反する。	あることをする目的や理由	〔 〕
(イ)	イシユ返しをする。	▼しかえし	〔 〕
(ウ)	編纂のシヨイ書に判を押す。	目的とする考え	〔 〕
(エ)	シユコウを凝らしたもてなし。	味わいを出すための工夫	〔 〕
(オ)	ジヨウシユを解さぬ無粋な人。	しみしみとした味わい	〔 〕
(カ)	ヤシユあふれる民族の踊り。	素朴な味わい	〔 〕

?	盛り上がりにとぼしい。	〔	〕
---	-------------	---	---

(ア) 酸素のケツボウ。

〔

(イ) いつもピンボウしている。

〔

(ウ) 失職してキュウボウする。

〔

?	懐かしい思い出。 彼は懐が深い。	〔	〕
---	---------------------	---	---

(ア) 江戸文化をカイコする。

〔

(イ) 往時をジユツカイする。

〔

(ウ) お金にカイギ的になる。

〔

(エ) 折々のカンカイを書き記す。

〔

(オ) カイチユ時計を買う。

〔

(カ) 新戦略をカイホウしている。

〔

?	道のかたわらにたたずむ。	〔	〕
---	--------------	---	---

(ア) ロボウに咲く花。

〔

(イ) ボウカン者的な振る舞い。

〔

(ウ) ボウケイの企業。

〔

(エ) ボウジャク無人な態度。

〔

?	価格が適正か否か議論する。	〔	〕
---	---------------	---	---

(ア) 友人のアンピを気づかう。

〔

(イ) 言葉のカヒを考える。

〔

(ウ) サンピ両論渦巻く議論。

〔

(エ) 措置のトウヒを問題にする。

〔

(オ) いやオウなしに連れ戻す。

〔

?	すんだ腫の少女。	〔	〕
---	----------	---	---

(ア) 山奥の河はセイチヨウだ。

〔

(イ) 河川のチヨウメイ度。

〔

?	合格はかたい。	〔	〕
---	---------	---	---

(ア) キョウケンな志だ。

〔

(イ) 従来の立場をケンジする。

〔

(ウ) ケンジツな学習をする。

〔

(エ) 志操ケンゴなひと。

〔

?	ほがらかに晴れた秋空。	〔	〕
---	-------------	---	---

(ア) メイロウな予算案だ。

〔

(イ) 入賞のロウホウが入る。

〔

?	今わの際に立ち会う。	〔	〕
---	------------	---	---

(ア) 議論はサイゲンがなく続いた。

〔

(イ) 倒産の危機にサイカイする。

〔

?	昔ながらの趣を残す温泉宿。 お手紙の趣承りました。	〔	〕
---	------------------------------	---	---

(ア) 開業のシユシに反する。

〔

(イ) イシユ返しをする。

〔

(ウ) 編纂のシユイ書に判を押す。

〔

(エ) シユコウを凝らしたもてなし。

〔

(オ) ジョウシユを解さぬ無粋な人。

〔

(カ) ヤシユあふれる民族の踊り。

〔

乏
盛り上がりにとぼしい。
「 乏 」

(ア)
酸素のケツボウ <small>必要なものが不足すること</small>
「 欠乏 」
(イ)
いつもピンボウしている。 <small>財産や収入がなくなってしまう。暮らす</small>
「 貧乏 」
(ウ)
失職してキョウボウする。 <small>金銭や物がなく苦しむ</small>
「 窮乏 」

懐
懐かしい思い出。
「 なつ 」
彼は懐が深い。
「 ふところ 」

(ア)
江戸文化をカイコする。 <small>遠い昔を思い心ひかれる</small>
「 懐古 」
(イ)
往時をジユツカイする。 <small>心中の思いをのべる</small>
「 述懐 」
(ウ)
お金にカイギ的になる。 <small>うたがいを抱くこと</small>
「 懷疑 」
(エ)
折々のカンカイを書き記す。 <small>心に抱く思い</small>
「 感懐 」
(オ)
衣服の胸のどころやポケットの内 カイチュウ時計を買う。
「 懐中 」
(カ)
新戦略をカイボウしている。 <small>心にいだき思っている</small>
「 懷抱 」

傍
道のかたわらにたえずむ。
「 傍 」

(ア)
ロボウに咲く花。 <small>みづはた</small>
「 路傍 」
(イ)
ボウカン者の振る舞い。 <small>はたから眺めること</small>
「 傍観 」
(ウ)
ボウケイの企業。 <small>主流からはずれた</small>
「 傍系 」
(エ)
ボウジャク無んな態度。 <small>勝手気ままに振る舞う様子</small>
「 傍若 」
否
価格が適正か否か議論する。
「 いな 」

(ア)
友人のアンビを気づかう。 <small>無事かどうか</small>
「 安否 」
(イ)
言葉のカヒを考える。 <small>よしあし</small>
「 可否 」
(ウ)
サンビ両論渦巻く議論。 <small>▼さんせいと反対、両方の意見</small>
「 賛否 」
(エ)
措置のトウビを問題にする。 <small>正しいか正しくないか</small>
「 当否 」
(オ)
いやオウなしに連れ戻す。 <small>▼無理やり</small>
「 否応 」

澄
すんだ瞳の少女。
「 澄 」

(ア)
山奥の河はセイチヨウだ。 <small>きよらかですみきつている</small>
「 清澄 」
(イ)
河川のチヨウメイ度。 <small>水や空気などがすみきつていっている</small>
「 澄明 」
堅
合格はかたい。
「 堅 」

(ア)
キヨウケンな志だ。 <small>しつかりしている</small>
「 強堅 」
(イ)
従来立場をケンシする。 <small>かたへ守って譲らない</small>
「 堅持 」
(ウ)
ケンジツな学習をする。 <small>手がたく危なげない</small>
「 堅実 」
(エ)
志操ケンゴなひと。 <small>▼主義主張を強い意志で貫くこと</small>
「 堅固 」
朗
ほからかに晴れた秋空。
「 朗 」

(ア)
嘘やマカしのない メイロウな予算案だ。
「 明朗 」
(イ)
入賞のロウボウが入る。 <small>あかるい知らせ</small>
「 朗報 」

際
▼まにこ思を引き取うつことしている時 今わの際に立ち会つ。
「 きわ 」

(ア)
議論はサイゲンがなく続いた。 <small>かぎり</small>
「 際限 」
(イ)
倒産の危機にサイカイする。 <small>たまたまあつ</small>
「 際会 」
趣
お手紙の趣承りました。
「 おもむき 」
昔ながらの趣を残す温泉宿。
「 おもむき 」

(ア)
開業のシユシに反する。 <small>あることをする目的や理由</small>
「 趣旨 」
(イ)
イシユ返しをする。 <small>▼しかえし</small>
「 意趣 」
(ウ)
編纂のシユイ書に判を押す。 <small>目的とする考え</small>
「 趣意 」
(エ)
シユコウを出すための工夫 シユコウを凝らしたもてなし。
「 趣向 」
(オ)
ジヨウシユを解さぬ無粋な人。 <small>しみじみとした味わい</small>
「 情趣 」
(カ)
ヤシユあふれる民族の踊り。 <small>素朴な味わい</small>
「 野趣 」